

令和7年3月5日

島本町立第一中学校
校長 松本 剛 様

島本町立第一中学校学校協議会
会 長 宮本 武志

令和7年度に向けての島本町立第一中学校への提言

令和6年度の学校協議会を踏まえ、学校、生徒、保護者及び地域住民がお互いに信頼関係を築き、また、地域の公立学校としてより良い学校となるよう令和7年度の教育活動に向け以下の提言を致します。

次年度に島本町立第一中学校として目指すべき方向について

1. 確かな学びと学力向上の推進について

令和6年度の学校教育自己診断における①学校行くことが楽しい。②先生は、生徒が自ら進んで学ぶことができる授業を行っている。③一人一台端末（タブレット）を活用した授業はわかりやすい。等の質問項目に対し、生徒の肯定的な評価がいずれも90%前後の値を示していると同時に昨年度に比べてもより高い数値が現れている。それは第一中学校において昨年度から学力向上に係る大阪府の指定を受け、学校全体で進めてきた授業改善等の取組が功を奏しているものだと考える。

については、SE推進事業指定校として次年度以降もSDGs等のテーマを基にした探究学習や自学自習力の育成をキーワードとして、日常の授業や様々な教育活動の中で生徒の探究的な活動を持続的に取り入れ、第一中学校の全ての生徒が生涯において学び続けることができる礎となるような力を身に付けさせていただきたい。

2. 心の教育の充実と支援体制について

令和6年度の学校教育自己診断の結果において、心の教育や規範意識の育成、いじめ防止等に関する項目で、生徒の肯定的評価が90%を超えている。

いじめの認知件数は昨年度よりも増加しているということであるが、文部科学省の発表した数値でも全国的に増えていることから、いじめを0にするという視点ではなく、生徒同士のトラブルがあった時点で迅速かつ丁寧に対応されているところが良いと感じた。

学校全体で3年間を見通した人権キャリア教育のカリキュラムを策定し、一貫性、系統性のある人権学習の取組がなされていることが生徒の肯定的な回答97%につながっていると考えられる。

また、今年度実施された生徒会規則の見直しなど、生徒に寄り添った指導や支援が反映されているものと思われる。

今後においても、いじめ防止対策の一つとして毎学期ごとのアンケート調査の有効活用とともに、未然防止の視点を持った集団作りやいじめの早期発見・早期対応など迅速できめ細やかな指導が組織的になされるようお願いしたい。

3. その他について

① 学校教育自己診断結果より保護者の「わからない」と回答する数値が今年度も少し高いことから、学校の様々な教育活動や取組に関わって、日々の教育活動の様子を学年だよりや学校だよりのみならず HP 上のブログなどを活用した情報発信や情報共有をより充実させることで、保護者への周知理解が進むと考える。改善に努めていただきたい。

② 学校教育自己診断の質問の文言が個人によって捉え方が違うように感じる。質問項目は島本町で統一されているようだが、より回答がしやすくなるように質問の捉え方を統一できるような文言に変更した方がよいと考える。改善に努めていただきたい。

③ 定期テスト前の学習会や読書活動における読み聞かせ、あるいは総合的な授業における福祉体験などの場で地域ボランティアの活用を図られているが、今後さらなる活用を広げることで学校と地域とのつながりが進展し、防災拠点としての学校の役割についても理解が進むと考える。改善に努めていただきたい。

以上